



スタンドックス スクラッチレジストクリヤー-K9420

スタンドックス スクラッチレジストクリヤー-K9420 はトヨタセルフリストアリングクリヤーに対応する自己修復性耐擦傷性クリヤーです。特別な塗膜の弾性機能が付与されており熱によってリフローし軽いスリ傷を修復します。

- ・ 優れたリフロー機能
- ・ 耐久性、耐薬品性に優れる。
- ・ 優れたポリッシュ性
- ・ 専用硬化剤の使用



自己修復性クリヤー



「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用するにはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいますようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」

スタンドックス スクラッチレジストクリヤーK9420

製品の使用について-標準塗装仕様



作業中は呼吸器系、皮膚および眼への炎症を避けるため、適切な防護服やマスク、安全メガネ等の保護具を必ずご使用ください。



スタンドブルーベースコート/スタンドックスベースコート: 塗装前に表面は TDS に従いフラッシュオフし乾燥させる。

旧塗膜: 塗装前に研磨・脱脂する。



クリヤー		ハードナー		シンナー	
容量	重量	容量	重量	容量	重量
3	100	1	36	5%	6
K9420		スクラッチレジスト硬化剤		2K シンナー	

ポットライフ(20°C): 1 時間



	口径	スプレー圧力	
規制適合(中圧)	1.3-1.4mm	1.8-2.0 バール	手元圧
HVLP	1.3-1.4mm	0.7 バール	噴霧圧(ノズル)



2 コート
コート間フラッシュ: 5 分
最終フラッシュオフ: 5-10 分



	スクラッチレジスト硬化剤
60-65°C	20 分



IR(短波)乾燥ガイドライン

ハーフパワー: 5 分

フルパワー: 10-15 分

VOC規制

この製品は VOC 規制(欧州)に適合していません。

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」

スタンドックス スクラッチレジストクリヤーK9420

製品構成

スタンドックス スクラッチレジストクリヤーK9420

スタンドックス スクラッチレジスト硬化剤

製品の混合

混合比率は、スタンドウィン IQ の製品混合と TDS を利用できます。



DIN4: 14-16 秒/20°C

45-55 μ m

オーバーコートする場合、乾燥後に足付け研磨。

使用後は適切な溶剤型洗浄用シンナーで洗浄してください。

注意事項

- ・ 使用前に塗料は室温(18-25°C)で保管してください。
強制乾燥時はパネル温度に達する迄の予熱時間を追加してください。
- ・ 混合済みの塗料は、元の容器に戻さないでください。
- ・ クリヤーと硬化剤は使用後直ちに蓋をしっかりと閉めてください。空気中の湿気や水分と反応し硬化不良の原因になります。
- ・ スタンドックススクラッチレジスト硬化剤しか使用できません。
- ・ ボカシ塗装は 2K スマートブレンドを使用してください。
- ・ スタンドックス スクラッチレジストクリヤーK9420 にスタンドックス 2K ソフトナーニュー5660、スタンドックススペシャルマット 5630、スタンドックスクリヤーコートアディティブは使用できません。

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」